

地下街安心避難対策検討委員会 設置趣旨

地下街等は、全国の拠点駅の周辺等において、都市内の重要な地下歩行者ネットワークとして、公共的な空間を形成しており、来街者が10万人以上となる地下街も多数存在している。

昨年7月の首都直下地震対策検討ワーキンググループにおいて、「首都直下地震時における災害応急対策の主な課題」として、「地震発生時には、地下鉄や地下街において、地上への出入口や階段等に殺到することによる混乱、転倒・負傷等の事態が懸念される。」としている。

一方、地下街の多くは、昭和30年代から昭和50年代に整備されており、8割以上の地下街が開設から30年以上経過している状況にあり、設備の老朽化等が進んでいると考えられる。

このため、地下街等の安全対策の推進は喫緊の課題であり、国としては、避難路となる通路の安全点検や災害時の避難シミュレーションによる被害予測等を踏まえ、安心して避難できるよう、必要な対応策を検討し、安心避難ガイドラインを策定することとしている。

本委員会は、安心避難ガイドラインの策定にあたり、学識経験者等の意見を聴取することを目的として設置するものである。